

確認しよう！



カラスやキツネの 対策を考えましょう

実践しよう！



環境衛生係 Tel 74-4769

近年、カラスからの威嚇やキツネの徘徊、フンなどの相談を多く受けます。その多くは、巣の材料になるような物（手入れのされていない木や空き家など）の放置や餌となるものがあるなど、人が野生動物にとって巣を作りやすく住みやすい状況を作ってしまうことが原因です。事前に対策することで防げることもありますので、習性や対策について確認し、実践するようお願いいたします。

カラスの巣について

カラスは春から初夏にかけて巣を作り、卵を産んでヒナをかせします。そして、ヒナが飛び立つまで親ガラスがそばで見守ります。この子育ての時期に人間が巣やヒナに近づこうとすると、親ガラスはヒナを守ろうとして近づく人間を威嚇して遠ざけようとします。

カラスに巣を作らせないために

庭木の枝が生い茂っているとカラスに巣作りされやすくなります。木の枝の三つ股になったところを剪定し、二股にするなどの対策が必要です。また、針金製のハンガーなど、巣材に使われそうなものを野外に放置しないようにしましょう。

カラスの巣を発見したときは

カラスのヒナはふ化してから1か月ほどで巣立ちます。この1か月間に巣に近づくと、ヒナを守ろうとする親ガラスに襲われる危険性が高くなります。カラスの巣は「鳥獣保護管理法」により勝手に撤去できず、許可が必要です。威嚇され襲われるなどの被害がある場合は環境衛生係へご連絡ください。ただし、巣を撤去された親ガラスがその後さらに攻撃的になる例もあるため、生活環境に被害を及ぼす場合以外は刺激せず見守った方が良いでしょう。

威嚇されないためには

巣やヒナに近づかないことが第一です。巣を見上げたり、窓ガラス越しやベランダ越しに巣を見下ろすと親ガラスに敵とみなされることもあるため、むやみに巣を見ることはやめましょう。カラスを遠ざけようと棒を振り回したり石を投げたりなどの行動は逆効果です。

威嚇される場合は、つばのある帽子をかぶったり傘を差すことで攻撃を防ぐことができます。また、カラスは人間の背後を狙って飛んでくるため、カラスに背を向けなければ威嚇行動を避けることができます。

住宅地のキツネ対策

キツネはエキノコックス症の感染源ですが、「鳥獣保護管理法」により野生動物として保護の対象となっているため、原則駆除はできません。そのため、キツネが好む環境をつくらないことが重要です。

住宅地に寄せ付けないために

- 餌となる残飯や生ごみ、犬や猫の餌を外に放置しない
- 生ごみが散乱しないよう、ごみステーションの管理を徹底する
- 餌付けは絶対にしない
- 大きな音を立てて追い払う
- 木酢液などキツネが嫌がるものをまく

エキノコックス症の予防方法

エキノコックス症の予防は、エキノコックスの卵が口に入らないようにすることが第一です。次のことに注意しましょう。

- 外出後はよく手を洗う
- キツネに触らない、近寄らない、餌を与えない
- キツネのフンを直接触らない（処分する際は小さなスコップなどを使い、30cm程の穴を掘って埋める）
- 家庭菜園の野菜や山菜は加熱またはよく水洗いする
- 生ごみなどキツネの餌になるものはきちんと保管し、適切に処分する
- 沢水や小川の水など生水は飲まない
- 犬が野ネズミを食べないように、放し飼いは絶対にしない

▶▶エキノコックス症検診を実施します

キツネなどに頻繁に触れたり山菜や沢水などの生水を飲食する方は、5年に1度は検診を受け、感染の有無を確認しましょう。

- とき 6月4日(出) 10:30～11:00
- ところ ふれあいセンター
- 対象 小学3年生以上の市民
- 検査方法 血液検査
- 料金 500円
- 申込 6月3日(金)までに下記へ
 関ふれあいセンター Tel 52-2000